

事業の背景・目的



R5.4改正外来生物法の趣旨に沿った都道府県-市町村-民間事業者の協力のモデルとして特定外来生物の防除に取り組む。また、県内各市町、関係団体等と連絡会議を設置のうえ、外来生物早期発見・通報・防除体制の構築を図る。

事業の内容

ア 普及啓発事業

講習会
 ・伊丹市内において、行政担当者及び住民を対象としたアルゼンチンアリ対策講習会(2回)を開催。
 ・丹波篠山市内において、外来生物が生物多様性へ及ぼす影響についての講習会を開催。



アルゼンチンアリ

対策会議
 ・関係機関と連携し防除に取り組むため、伊丹アルゼンチンアリ防除検討会を開催。
 ・県内に初侵入が確認されたクビアカツヤカミキリについて、対策を講じるため、対策会議を開催。
 ・アライグマ・ヌートリアについて、市町等と連携を図るため連絡対策会議を開催。

普及啓発資材の作成
 ・ナガエツルノゲイトウのチラシを印刷し、ため池管理者等へ配布。
 ・R5.6月に条件付特定外来生物に指定されるアカミミガメ及びアメリカザリガニについて、チラシを作成。
 ・県内に初侵入が確認されたクビアカツヤカミキリについて、当該カミキリを含むカミキリ類の標本作製し、県内市町や農林部局等へ広く配布。



クビアカツヤカミキリ



アライグマ

イ 調査

・クビアカツヤカミキリのPCR検査体制を構築し、疑わしいフラスの通報があった場合に検査を実施。(検査実績：17検体)

ウ 緊急用薬剤等の配備

・アルゼンチンアリ用のベイト剤を購入し、県管理地の防除を実施。
 ・クビアカツヤカミキリ用の防除資材等を購入し、発生地における防除を実施。

得られた成果

- ・対象者別のアルゼンチンアリ対策講習会の開催により、その特性や防除方法に関する理解が進み、効果的な防除に繋がった。
- ・伊丹アルゼンチンアリ防除対策検討会の設置により、関係機関と密に連携のうえ早期防除に取り組むことができた。
- ・クビアカツヤカミキリ対策会議では、県内初侵入という特殊事情のなか、早急に対応することができ、被害拡大の防止に繋がった。
- ・アライグマ・ヌートリア連絡対策会議を開催し、県内市町、関係部署、研究機関等との連絡体制の構築及び情報共有を行うことができた。
- ・ナガエツルノゲイトウのチラシを印刷し、他部局を通じて広く周知を図った。
- ・クビアカツヤカミキリPCR検査では、住民等から通報があった場合に検査を行い、陽性が確認された場合は、早期防除に繋げることができた。
- ・アルゼンチンアリ及びクビアカツヤカミキリの防除資材を購入し、県管理地や侵入初期段階の場所における緊急防除を行うことができた。